

会津大学国際戦略の指針

はじめに

会津大学は建学の精神の柱に国際化を掲げ、開学以来、教員を国際公募により採用し、外国人教員比率を上げるなど多くの国際化施策を実施してきた。外国人教員の受け入れ態勢としての外国人教員等相談員や国際交流談話室の設置をはじめ、英語・日本語を学内公用語とするなど国際的な環境を構築してきた。その結果、他の国内大学に比べ外国人教員の比率の高さ、10 数カ国からの外国人教員や客員研究員を受け入れ、研究交流など着実に実績を積んできた。平成 17 年には文部科学省「大学等国際戦略本部強化事業」の採択を受け、国際化施策に取り組むための中核として国際戦略本部が設置された。以降、海外学術・教育交流協定を拡大し、本学大学院への留学生受け入れ、学部生の交流を推進してきた。会津大学の留学修了生、旧客員研究員や旧教員は、現在世界の多くの地域で活躍しており、大学にとっての大きな財産となっている。

昨今、グローバル化に伴う日本や会津地域の社会環境の変化、IT 産業の状況など、会津大学の教育、研究、地域貢献を柱とした大学の中軸施策の中で、国際戦略の果す役割は今まで以上に重きを増している。国の事業施策として採択された大学院教育改革支援プログラム、アジア人財資金構想においても推進の要因として国際活動を打ち出している。今回、より高いレベルの研究と教育、国際社会で通用する人材養成を実現へ貢献するため、国際活動の基本を「会津大学国際戦略の指針」として制定する。即ち、全学的な戦略に基づいた取組みとして、国際交流の柱を 4 分野に置き、重点施策として推進する。教職員、関係者への周知により機動力をもって国際交流の強化を図り、世界へのゲートウエーの役割「地域から世界へ、世界から地域へ」(local to global, global to local)を実現する。

会津大学国際戦略の指針

基本方針

会津大学の建学の理念「to Advance Knowledge for Humanity」の推進のため研究、教育の両面で国際交流を図り、国際的な教育研究の拠点として優れた人材の育成と独創的な研究を通して国際社会と地域社会に貢献することにより、「地域から世界へ、世界から地域へ」(local to global, global to local)を実現する。

目的

1. 会津大学の研究・教育との相乗、補完となる国際交流を実施し、高いレベルの研究、教育を実現する。
2. 国際社会で通用する人材、グローバルな視野を持ち地域に役立つ人材を養成するとともに、国際交流活動を通じて地域への貢献を図る。

国際戦略

会津大学は、研究教育分野の国際的連携、国際的人材の養成、地域特性に応じた連携の展開、国際戦略実行体制の整備を4つの基本的な国際戦略として推進する。

1. 研究教育分野の国際的連携

海外大学との連携は、英語・日本語が学内公用語であるなど国際的な環境を持つ本学の特色を活かし、研究面、教育面の相乗、補完を目指した交流を地域性・文化、産業の観点を考慮して実施する。

1.1 研究交流

研究交流では、本学のコンピュータ理工学の研究基盤の強化を図るため、海外大学との研究分野での相乗、補完となる交流、及び学際、複合領域における研究活動の統合に寄与する交流を推進する。コンピュータ理工学を始め該当の分野でトップクラスの大学との研究教育上の交流協定締結を拡充する。この協定を踏まえて国際共同研究等具体的な取り組みのプランを作成し、遂行する。人材開発の可能性、機会が多く見込まれ、本学の外国人教員との強いネットワークが存在するアジア諸国及びロシアを「海外重点交流先」として、有機的連携を図る。

1.2 教育交流

教育交流では、広く学習支援の体制と方法、教務運営を学び、授業の改善に役立てるため、教育プログラムに関してトップクラスの大学との連携を行う。本学の理工学に特化した英語教育のプログラムをさらに強化し、最先端のIT

教育・研究環境の一層の充実を図る。そのため「海外重点交流先」として米国の学部教育での実績のある大学との交流を行う。教育プログラムのベストプラクティスを取り入れていくことにより、英語教育とIT専門教育での質を向上し、国際的な視野を持った、地域に貢献する人材を育成・輩出する。

2. 国際的人材の養成

高度な専門性に加えて国際的資質を備えた人材育成のため学生交流を促進する。交流上の戦略としては、異文化の環境を経験する一般交流、さらに教育活動を深めるため、交流校での単位取得や学位取得、交換留学や研究指導での海外大学の教員による指導を行う。交流の基底をなす一般協定、それに基づく国際単位互換制度やDual Degree制度については対象を特定校に絞り、交流の深化を図る。英語による教育、英語専門教育などの本学の強みを活かし、学生の派遣受け入れを進めるとともに、本学の優秀な学生に対する海外での学習・研究の機会を積極的に提供する。このプログラム遂行のための、奨学金制度や授業料免除等の内部制度の整備や受け入れのための施設の充実などを図る。

3. 地域特性に応じた連携の展開

国際交流活動を通じて地域への貢献のため、交流先の文化、産業など地域の特性に応じた交流を展開する。会津地域に根ざした本学としては、外国人留学生が伝統的な日本文化に触れ、日本の地域産業を学ぶ受け皿作りを進める。成長著しいアジア地区とは、IT産業基盤を活用するためインターンシップなど産学連携の施策に関しても連携を図る。

4. 国際戦略実行体制の整備

高度な国際業務機能を有する全学横断型の組織体制を整備する。

4.1 国際戦略本部

国際戦略の施策を全学横断型の機動力をもって実行するため、国際戦略本部に担当理事を置き大学の各種施策（含む公募型事業等）と連携していくとともに、企画・調整を一元的に実行可能な学内組織体制の確立を図る。重点実施施策は大学の中期計画のもとに年度計画として策定し、点検・評価を行う。また、国際交流の所管地域を持つ教員も含めた学内外委員によるアドバイザリーボードを活用し、実施施策の評価、今後の方向性について全学的検討を加えながら国際戦略を展開する。

4.2 外国人サポーター体制

外国人教員、研究者及び留学生が、本学において日本人と区別なく研究教育活動等が行えるような、いわば「研究教育環境の日常的国際化」の推進のため、外国人サポーター人材の増員を図り、関係団体への研究資金援助申請手続

きや外国人相談員による生活支援、日本語教室の開催等、支援体制を強化する。

4.3 国際会議等における支援

大学間の国際連携を通じた人材育成や地域貢献に寄与する国際シンポジウムや、国際学会、大学の国際化に関する講演会等の開催について、その運営・企画等を支援し、国際交流活動の一層の推進を図る。

4.4 外国人教員・留学生のネットワークを生かした交流

本学の強みである十数カ国にわたる外国人教員や外国人留学生の持つ世界的な人脈を生かし、情報発信基盤を整備する。アジア諸国を中心に本学への留学、研究交流の経験者は母国にて重要な地位に就いていることから、会津大学固有の人的ネットワークを活かし、契機は個人から、活動は戦略に沿って組織的に行う。国際的な人の流れと相補的な機能として、会津大学国際 Alumni Association を立ち上げ、会津大学にコンピュータ科学やIT情報の流れの拠点化を図る。

4.5 国際業務の専門教員・職員の育成

学生交流や研究者交流に専門的にたずさわる専門職の教員、職員の研修や採用を進め、外国人等相談員を有機的に統合した組織作りを行い、国際交流の支援体制の強化を図る。教員の40%が外国人、英語・日本語が学内公用語など、国内の大学に比べ既に高いレベルの国際化がなされている環境により培った経験と知見を活かし、教員、職員のスキル向上、国際交流施策の改善、学外での有効利用につなげる。

以上